

第2次明石市生涯学習ビジョン（素案）への意見募集結果について

2021(令和3)年12月13日(月)から2022(令和4)年1月15日(土)までの間に行った意見募集の結果について、以下のとおりお知らせします。

1 募集結果

4名の方から延べ21件のご意見をいただきました。

2 意見の概要及び市の考え方

提出いただいた意見の概要と、これに対する市の考え方は以下のとおりです。

※提出いただいた意見は、趣旨を損なわないよう要約しました。

(1)ビジョン素案全体に関する意見		
No	意見の概要	市の考え方
1	明石市の生涯学習が、いくつになっても、どんな立場の人も学び続けることができる制度となつてほしい。	ご意見のとおり、性別や年齢、障害の有無などに関係なく学ぶことができ、全ての市民が豊かな人生を送れることを本ビジョンの基本理念の一つに定めています。
2	「発見型の学び」により学びの幅を広げるというものは、新しい視点であり、このビジョンのアピールポイントである。	ご意見のとおり、本ビジョンをふまえて、「自分の経験」「他者との対話・表現」「活動」を通じて得られる「発見型の学び」を視点に加え、市民の学びの幅を広げていきたいと考えています。
3	従来の生涯学習と異なる新しい分野として「ボランティア・市民活動など」を重視することは適切である。	自治会、校区まちづくり組織、テーマ型市民活動団体など多様な主体の多様な「活動」は、市民の学びの幅を広げるための重要な一つの方法として認識しています。
4	ビジョン実現のためのロードマップが必要ではないか。	本ビジョンは今後の生涯学習を推進していく上での大きな考え方を示すものです。従って、4章に記載している各種取り組みを参考に、多様な主体が各々で取り組んでいくものであると考えています。

(2)ビジョン策定の目的と位置づけについて

5	<p>「よりよい社会づくり」を生涯学習の目的と捉えたことは評価できる一方で、ビジョンの位置づけの中で明石市自治基本条例に全く触れられていない。自治基本条例に掲げた、「市民自治のまちづくり」の実現を果たす担い手である市民を醸成するという事を、生涯学習の目的に入れるべきである。</p>	<p>本ビジョンは、市民一人ひとりが豊かな人生を送れるよう、今後の生涯学習を推進していく上での大きな考え方を示すものです。その中には、市民自治の観点も含んでいますが、直接自治基本条例を実現するためのビジョンという位置づけではありません。</p> <p>しかしご意見のとおり、市民自治のまちづくりの主体である市民のエンパワメントを行うことは生涯学習の目的の一つと考えているため、「市民の公共意識が高い社会」の実現を基本理念の中に定めています。</p>
6	<p>生涯学習には認知症予防の役割もある。生涯学習によって認知症予防・共生につながるという視点も必要ではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、認知症の予防や健康づくりも含めて、生涯学習には様々な効果があると考えています。</p>
7	<p>コロナ禍で、外へ出かける、人とコミュニケーションをとることが制限されたことから認知症になったケースが増えたという実感がある。決まった時間・場所に出かけること自体が認知症の予防につながるため、具体的には「会場へ足を運んで参加すること」にもっと重きをおいてはどうか。新しい知識を得る・共に学ぶ仲間と交流することは共生にもつながると考える。</p>	<p>ご意見のとおり、実際に会場へ足を運び、そこで仲間と交流しながら学ぶことは重要であると考えています。そのため、P27を中心に、他者と関わる、交流する場づくりを学びのポイントとして記載しています。</p> <p>また、受講形式や受講場所等に自由度を持たせた学びの場づくりをP39で記載しているように、様々な形を選択できることが重要であると考えています。</p>

(3)明石市の生涯学習の現状について

8	<p>P16 中学校コミセンの分析に、市民活動の広場機能の不十分があるのではないかと。コミセンでない広場も必要ではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、中学校コミセンにおいては、多様な人が集い多様な学びを行う「学びのハブ」としての機能を強化する必要があると考えています。そこで、P47以降に記載する各種機能を高めることで、地域における中学校コミセンの「学びのハブ」化を進めていきます。</p>
---	---	---

9	ウィズあかしを拠点とした市民活動団体の事例や登録数など、分野型市民活動団体の現状に触れられていない。	ご意見をふまえ、P13 市民の生涯学習への意識の中で、ウィズあかし登録制度を活用している団体・個人の数や、市ボランティア連絡会の登録数などを記載します。
(4)基本理念について		
10	基本理念とP22で示されたこれからの生涯学習が連動していないように思える。	これからの生涯学習で重視する「自分の経験」「他者との対話・表現」「活動」などを通じて学ぶことにより、一人ひとりが豊かな人生を送れるだけでなく、基本理念に定める多様性の尊重や公共意識の醸成につながると考えています。
11	基本理念3を、「市民の公共意識が高く、市民参画が当たり前の社会」としてはどうか。	ご意見にあるような社会に近づけるよう、本ビジョンの考え方に基づいた学びを推進していきたいと考えています。
(5)基本方針について		
12	基本理念3「市民の公共意識(シチズンシップ)が高い社会」を反映した基本方針3の記述が必要。	基本理念と基本方針の関係性については、基本理念1の実現のために基本方針1があり、基本理念2の実現のために基本方針2があるといった関係性ではなく、5つの基本方針をもって基本理念1～3を実現していくというものです。そこで、基本方針に即した多様な学びを推進することで、市民の公共意識が高い社会を目指していきます。
13	3章から4章へのつながりがない。戦略がなく、すぐに戦術になっているため、基本方針の見直しが必要。	4章の導入部に記載している5つの重点ポイントが、戦略に当たる部分であると考えていますが、ご意見をふまえて表現方法を検討します。
14	基本方針に「市民一人ひとりの多様な生涯学習の成果を地域社会に生かす」を追加してはどうか。	ご意見のとおり、「学び」と「活動」の場をつなげる」として今後の生涯学習推進の基本方針の一つに定めます。

(6)生涯学習の方法・スタイルについて		
15	誤解を招く恐れがあるため、P22の図中の「学びという認識が低い活動」の表現を、「活動を通じての学び」と変更してはどうか。	多様な活動については、学びであるにもかかわらず、その認識が低いことから、今後は新たに学びの一領域として捉えていくということをP22の図で表しています。そのため、現状の表現を残しながら、ご意見をふまえて一部修正します。
16	P22の図中「ボランティア・市民活動など」の部分に、自治会・校区まちづくり組織・地区社協などの記載も必要ではないか。	ご意見をふまえ、表現を修正します。
17	P22の図のイメージを4章にもっと反映させるべきである。	P22に記載した「自分の経験から学ぶ」「他者との対話・表現を通じて学ぶ」「活動を通じて学ぶ」という方向性に当てはまるものを、具体的な取り組み事例として4章の大半で記載しています。
18	「発見型の学び」は新しい視点での取り組みであり、その視点に立った市民活動の展開を記載してほしい。	ご意見のとおり、「自分の経験から学ぶ」「他者との対話・表現を通じて学ぶ」「活動を通じて学ぶ」という「発見型の学び」が得られることで、学びの幅が広がり、本ビジョンに定める基本理念の実現につながると考えています。 「活動を通じて学ぶ」ことについては、多様な主体が行っている活動と連携した学びの場づくりを行っていきたいと考えています。
19	ボランティア・市民活動等を、「生涯学習の新しい分野」として記載するだけでなく、自治基本条例に定める「市民自治のまちづくり」に対応した、「市政への参画と協働」「新しい公共」に取り組む市民の担い手を醸成する役割があることを明確にすべきである。その上で、社会や行政のあらゆる分野に対応して社会的貢献をめざす分野型市民活動団体の役割やすそ野の広がりにも言及すべきである。	本ビジョンは、市民一人ひとりが豊かな人生を送れるよう、今後の生涯学習を推進していく上での大きな考え方を示すものです。その中には、市民自治の観点も含んでいますが、直接自治基本条例を実現するためのビジョンという位置づけではありません。 ご意見にあるような役割がボランティア・市民活動等にはありますが、本ビジョンはあくまでも生涯学習の観点から策定したものであるため、それらの役割には言及していません。

(7)学習提供者・支援者として必要な取り組みについて

20	ボランティア・市民活動を側面から支える支援が必要。明石市は分野型市民活動への支援体制が立ち遅れている。そこで、市民活動支援の具体的な計画づくりを促す記述が必要ではないか。	本ビジョンは生涯学習の観点から、ボランティア・市民活動等の多様な活動を「学び」の一つの形として捉え、「活動を通じた学び」を推進していくものであり、具体的な市民活動支援の計画を立てるものではありません。
21	中学校コミセンに、市民活動支援センターの「分室的機能」を併せ持つ役割を加え、東部に1箇所しかない市民活動支援センターの機能を全市的に広げることも重要な課題である。	ご意見のとおり中学校コミセンには、色々な人や団体が交流できる機会づくりや、地域内外の人や団体をつなげるコーディネートといった、地域における「学びのハブ」としての機能があると考えています。そこで、P46以降に記載する各種機能を高めることで、「学びのハブ」化を進めていきます。